

芽室町議会の議会活性化計画書と議会白書に関する提案¹

1. 現行の議会活性化計画書と議会白書で気になる点

(1) 議会活性化計画書と議会白書の関係について

- 両者の関係がわかりにくい。
 - ・ 活性化計画書の前年度評価部分は白書と一部重複し、白書の目次建てともあいまって、両文書の役割の違いを曖昧にさせている。
 - ・ 加えて、活性化計画自体の説明は白書に書かれているだけで、議会HPや活性化計画書にない。

(2) 議会活性化計画書²について

- 基本方針について、これらを重視する理由や項目間の関係の説明がない。
- 「1. 主要事業」と「3. 実行計画」の間に関係があるのか否かがわからない。
- 3. (3)の「①当該年度の活性化事項」と「②改善・新規活性化事項」の間に関係があるのか否かがわからない。

(3) 議会白書³について

- 白書は議会運営の理念や基本方針を町民と再確認する重要な媒体と考えるが、議会改革・活性化計画が前面に出て、理念や基本方針に触れていない。
- 毎年度実績を積み重ねて記載しているので、分量が増す傾向にある。
- 町民にとって重要な情報源であるが、議会だよりほどには読みやすさを考慮していない。

2. 提案で目指したこと

- 活性化計画書と白書を、もっと町民に分かりやすい構成にする。
- 議会活動のPDCAに役立つようにする。
- とりまとめにかかる負担を軽減する。

¹ インターンとして受けていただきながら何もしていないこと、また、議会活性化計画書や議会白書は町民にもっと読んでほしい思ったことから、僭越ながらこの提案をまとめました。

² 議会基本条例の引用：第24条 議会は、町民の信頼を高めるため、不断の改革及び活性化に努めます。2 議会は、前項の改革に取り組むため、議会活性化計画を策定し、実行と評価について全議員で協議します。

³ 議会基本条例の引用：第10条 議会は、町民に対し、議会及び議員の活動内容を公表し、情報を共有することにより、議会活動の活性化を図ります。2. 議会は、議会の基礎的な資料・情報、議会の評価等を1年ごとに調製し、議会白書として町民に公表します。

3. 具体的な提案

(1) 前提と目標

- 議会運営の基本理念と基本方針は当面変更しないことを前提とする。
- 活性化計画書は議会活動全般に関わる PDCA サイクルを町民が理解できるように視覚化することを目標とする⁴。
- 白書は当該年度の議会の活動状況全般を町民にできるだけわかりやすく報告することを目標とする。

(2) 具体的な提案

1) 議会活性化計画書の構成の変更（提案①-1）

当該年度計画と前年度評価の区分を目次で明確にする。前者は最初に 1. とし、活性化計画について説明する。2. には町民にとってより関心が高い政策課題をとりあげ、議会運営の活性化策は 3. に置く。後者は 1. で最終評価の総括を加える。さらに具体的には、以下のとおり。

<当該年度計画について>

- ・ 「1.」、「2.」、「3. (2)」は類似する課題を扱っているが、相互の関係は不明で焦点が定まらない印象を与えているので、項目をまとめ内容を整理する。
- ・ 2. の「基本理念」と「基本方針」について、「3. 実行計画 (2) 活性化策」（現行においてこの箇所に該当する変更後の箇所）の前段で説明する。
- ・ 「3. 実行計画」の「(1) 政策課題」は、当該課題の解決における PDCA サイクルをより意識して表の構成を変える（提案②）。
- ・ 「3. 実行計画」の「(2) 活性化策①」は、何が課題であるかをより具体的に提示する。現在の項目が今後も適切か再考する（参照①）。
- ・ 「(2) 活性化策」の「3. 適切な行政の監視と評価」と「4. 町民本位の政策立案と提言」については、制度的な課題を除き、「(1) 政策課題」の文脈に位置づける（提案②）。

<前年度の評価について>

- ・ 「4. 基本条例の実践評価」については、実績の追記にとどまっておりページ数増加の主な原因となっている。実績の詳細の記載は白書に譲る（現行の方法、様式による評価は終了する）。
- ・ 「5. 基本条例の議員自己評価」については、現行のままとする。ただし見やすさ／まとめやすさの観点から適宜修正する（評価しない項目についての記載をより簡略化するなど）。
- ・ 「6. 主要事業取組評価」と「7. 実行計画評価」は、計画書部分の構成が変わるため、項目はなくなる。

⁴ 前年度の評価結果が当該年度の計画に反映される道筋の明確化

2) 議会白書の構成（目次）と内容の変更（提案①-2）

- ・ 概要版と完全版の2種の製作をやめ、年次の報告書のみとする（これまで完成版でしか掲載されていない各年度の実績を含むようにする⁵）。
- ・ 過去の実績の掲載範囲を再考する（過去の実績を合わせて記載する場合の考え方を整理し、毎年の白書の分量を抑制する）。
- ・ 目次建ての拠り所を、手段（「議会改革」や「活性化」）から、議会活動の指針（「基本方針」）に変更する。
- ・ 町民が議会を評価する際の基本的な情報として実績を中心にまとめ、議会／議員の評価の記載は要点のみにとどめる⁶。議会による評価の詳細は活性化計画書に譲る旨を白書の中で言及する。
- ・ 新たに予算・決算審議の際の当該年度の要点や一般質問／文書質問の回答についての追跡状況を記載する。

以上

⁵ 実績を一覧できることは白書の利点であり、議会だよりに掲載済みの内容も、必要に応じてまとめることが望ましい。それらが現在は完全版に掲載されている。

⁶ 例えば、活性化計画書附録（評価）の総括の再掲